2012 年 9 月

根津美術館
NEZUMUSEUM

特 別 展

ZESHIN
－柴田是真の漆工・漆絵・絵画－

2012 年 11 月 1 日［木］～12 月 16 日［日］
［休館日］月曜日

《特別展》「ZESHIN －柴田是真の漆工・漆絵・絵画－」　展示室 1･2

根津美術館では、特別展「ZESHIN ―柴田是真の漆工・漆絵・絵画―」を11月1日［木］から12月16日［日］まで、開催します。（一部展示替え　前期：11月1日～25日、後期11月27日～12月16日）

柴田是真（1807～1891）は、幕末から明治時代にかけて活躍した蒔絵師であり絵師です。11歳から蒔絵を学び、16歳から四条派の絵画も学んだ是真は、下絵から蒔絵までを自ら手がけ、それ以前の蒔絵師にはなかった独自の制作態度をとりました。これによって、是真はウィットに富んだデザインと卓抜した漆工の技を合せた「五節句蒔絵手箱」（サントリー美術館蔵）に代表される洒脱な作品を作り出し、高い評価を得ました。同時に、その高い画技で絵師としても活躍し、掛軸はもとより、絵馬や屏風、襖絵といった大型の絵画作品も手がけています。さらに漆で絵を描く「**漆絵**」という、絵画と漆の技をあわせた作品も生み出し、その活動は絵画・工芸の枠を超えていきます。幕末の江戸で評判となり地歩を固めた是真は、明治時代になると、国の委嘱によって万国博覧会に漆工品や漆絵、絵画を出品。是真の作品は世界的に知られ、今日にいたっています。

近年は海外のコレクションによって紹介される機会の多かった柴田是真ですが、本展は、国内の作品から柴田是真の業績をたどる、約30年ぶりの機会となります。漆工品約100点、漆絵約20点、絵画作品約10点からなる約140点を一堂に展示し、近代的な工芸家の嚆矢といえる存在となった是真の仕事の全貌をご覧いただきます。

漆工

烏鷺蒔絵菓子器　柴田是真作

江戸～明治時代　19 世紀　東京国立博物館蔵

色紙を二枚重ねた形を象った箱を二つに分け、烏と鷺が対立する様子を金地に黒漆と銀蒔絵であらわした作品。御伽草子の「鴉鷺合戦」から想を得ている。

五節句蒔絵手箱　柴田是真作　［後期展示］

江戸～明治時代　19 世紀　サントリー美術館蔵（東京）

新春、上巳(雛)、端午、七夕、重陽の五節句にちなんだ風物を蒔絵であらわした作品。是真が得意とした**青銅塗**の地に、金の薄板や螺鈿を多用している。

夕顔蒔絵板戸　柴田是真・三浦乾也合作

江戸～明治時代　19 世紀　根津美術館蔵

戸の全面に蔓を伸ばす夕顔をあらわした作品。絵筆で一気呵成に描いたような蔓の表現と葉の**変塗**の技術がみどころである。象嵌されている陶製の夕顔の実(瓢簞)は、三浦乾也の作である。

業平蒔絵硯箱　柴田是真作

江戸～明治時代　19 世紀　根津美術館蔵

蒔絵の師・巨満寛哉が所持し、『光琳百図』にも載る琳派の硯箱を、是真が譲り受けた際に模造した硯箱。元の作品にはみられない**変塗**の技術が用いられている。

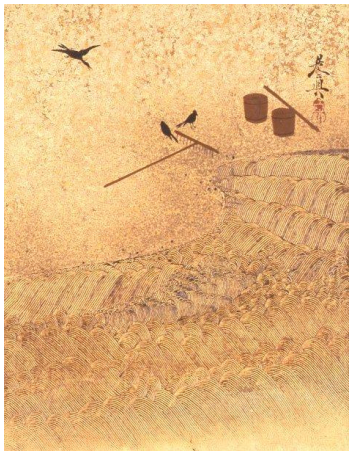
漆絵

漆絵画帖　柴田是真作

江戸～明治時代　19 世紀　個人蔵

右：波汐汲図[前期展示]
左：足柄山図[後期展示]

従来の**漆絵**にくらべて、是真独自の漆の調合、筆の使い方によるそれは、漆による絵画作品といってよい。本作は漆絵画帖のなかでもウィットの効いた作品が多く含まれている。



絵画

技法キーワード　―是真が得意とする漆芸技法―

漆絵　色漆で文様を描くこと、または描いたもの。

変塗　漆の塗り方（上塗）の一種。漆に顔料や卵殻などさまざまな材料を用いて質感を生みだす技法がある。刀の鞘の塗りに用いられたことから、「鞘塗」ともいう。

だまし漆器　陶器や墨、金属器などを模して作られた漆器。変塗の技術を駆使して作られたものが多い。

紫檀塗　唐木の紫檀を模した変塗の一つ。潤朱漆、朱漆、蠟色漆などを用いる。

青海波塗　漆で波文をあらわす変塗の一つ。江戸時代初期に流行した技法を、柴田是真が復興した。

青銅塗　金属の青銅の色と質感を模した変塗の一つ。漆に青色顔料（プルシアンブルー等）と黄色顔料（石黄等）を混ぜたものを用いる。

雛図　柴田是真作　［前期展示］

江戸～明治時代　19 世紀　根津美術館蔵

有職雛の絵の周囲、本来ならば表具の裂である部分に、描き表装という手法で蒔絵の雛道具の数々を描いた、一種のだまし絵といえる趣向の作品。是真は、雛や端午など節句物の絵画や工芸品を数多く手がけ、人気の高いテーマであったことがうかがえる。

［関連情報］

特別講演会１《是真の秘めたわざ》

日時　2012 年 11 月 24 日［土］　午後 2 時から午後 3 時 30 分
講師　室瀬　和美氏（漆芸家　人間国宝）
場所　根津美術館 講堂、定員 140 名

特別講演会２《大英博物館でうまれた日本美術史》

日時　2012 年 12 月 15 日［土］　午後 2 時から午後 3 時 30 分
講師　彬子女王殿下（立命館大学衣笠総合研究機構 特別招聘准教授）
場所　根津美術館 講堂、定員 140 名

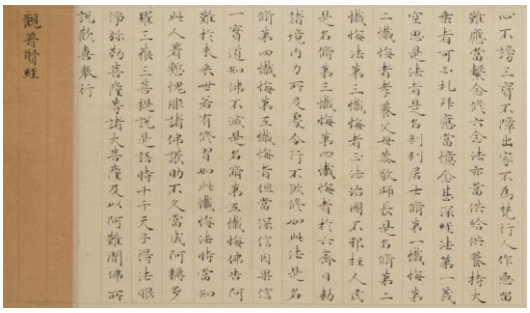
〈申し込み方法〉
往復はがきに参加を希望される「特別講演会１」もしくは「特別講演会２」、住所、氏名（返信面にも）、電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1　根津美術館「ZESHIN 特別講演会係」宛にお申込みください。「特別講演会１」は 2012 年 11 月 10 日［土］、「特別講演会２」は 12 月 1 日［土］締切（当日消印有効）。
参加希望者 1 名につき 1 枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

◆ギャラリートーク

2012 年 11 月 16 日［金］、12 月 7 日［金］
※いずれも午後 1 時 30 分より約 45 分間イヤホンガイドを使って行います。
※午後 1 時よりホールにて整理券を配布します。
※当日先着 30 名様に限らせていただきます。
※参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

－同時開催－《テーマ展示》

展示室 5「経典を飾る ―装飾経にこめた願い」



国宝 観普賢経（かんふげんきょう） 平安時代 11 世紀 根津美術館蔵

料紙（りょうし）や装丁（そうてい）を美しく飾り立てた、十数点の装飾経を展示。国宝「観普賢経」はその象徴ともいうべき遺品です。平安貴族の趣向を反映した上品な姿をゆっくりとご堪能ください。

展示室 6「口切（くちきり） ―茶人の正月― 」

交趾大亀香合（こうちおおがめこうごう） 中国・明時代 17 世紀 根津美術館蔵

初夏に摘んだ茶葉は、茶壺に詰めて、初冬まで熟成させます。11 月に茶壺の口の封を切って葉を取出し、臼で挽（ひ）いて新茶を点てる茶会が「口切」です。その茶人の正月を祝う茶道具を取合せます。

[開催概要]

【展覧会名】	特別展「ZESHIN －柴田是真の漆工・漆絵・絵画－」
【主　　催】	根津美術館
【開館期間】	2012 年 11 月 1 日［土］～12 月 16 日［日］ ＊ 一部展示替え　前期：11 月 1 日～25 日、後期：11 月 27 日～12 月 16 日
【開館時間】	午前 10 時～午後 5 時　［入館は午後 4 時 30 分まで］
【休 館 日】	毎週月曜日
【入 館 料】	一般 1200 円　学生 1000 円 ＊ 20 名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者 1 名は 200 円引き ＊ 中学生以下は無料
【前 売 券】	一般 1100 円　学生 900 円 ＊2012 年 9 月 8 日［土］～10 月 21 日［日］「平家物語画帖」展 開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
【アクセス】	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口（階段）より徒歩 8 分、B4 出口（階段とエスカレータ）より徒歩 10 分、B3 出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩 10 分
【住　　所】	〒107-0062　東京都港区南青山 6 丁目 5 番 1 号
【お問合わせ】	TEL 03-3400-2536（代表）
【ホームページ】	http://www.nezu-muse.or.jp　（日本語・English）
【携帯サイト】	http://www.nezu-muse-app.jp　（日本語・English） ＊携帯サイトは、機種により閲覧できない画面があります。
【専用アプリ】	「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

－次回展－

新春の国宝那智瀧図（なちのたきず） －仏教説話画の名品とともに－

2013 年1月9日[水]～2月 11 日[月・祝]

懸崖を流れる一筋の白い瀧。和歌山・那智山にかかる大瀧を描いた「那智瀧図」は、日本人の自然に対する畏敬の念、そしてその荘厳な美しさを表しています。
新春の根津美術館は、この名品とともに、当館が所蔵する「善光寺縁起絵」、「聖徳太子絵伝」をはじめとする仏教説話画の数々を一堂に展示いたします。

国宝 那智瀧図(部分) 鎌倉時代 13～14 世紀 根津美術館蔵

＜リリース・広報のお問い合わせ＞
担当：鎌倉/羽田/白原
TEL 03-3400-2538 広報（直）　FAX03-3400-2436　MAIL: press@nezu-muse.or.jp